本牧中学校通信

広がる夢

第 5-265 号

令和 5 年 12 月 25 日

学校教育目標 「見つめ」「認め」「高める」

生きることは、学び続けること

校長　高橋秀吉

令和5年も終わろうとしています。皆さまにとってどのような一年であったでしょうか。世界情勢や国内の状況に触れても、なかなか前向きになれないようなニュースが多かったように思います。

一方、本牧中学校おいては生徒たちの頑張りや個性が光った一年でありました。タウンニュース等でも紹介されたお弁当コンクール、税の作文、選挙作文、部活動などで成果が表れました。学習成績も大切ですが、自身の興味関心や個性を生かした分野での活躍は非認知能力を高めるうえでもとても大切です。生徒皆さんの個性が発揮され、生き生きとした姿を見ることができ、とても嬉しい一年でした。

今年度、横浜市中学校の人権協議会の会長を務めている関係で、先日教育委員会の方々と一緒に全国人権・同和教育研究大会に参加してきました。「部落差別」「LGBTQ」「障碍者差別」「外国人差別」等の人権課題に向き合っている教育現場の実践報告がありました。日々教育実践をしている方々からは、「子どもに向き合って学び続ける」という言葉が繰り返し述べられていました。

ここでジョン・デューイを思い出しました。ジョン・デューイ（1859-1952）はアメリカを代表する傑出した哲学者、教育学者の一人です。教育とは何かを問い、人びとがともに生きる民主主義／デモクラシーについて考え続け、実践した思想家です。その思想は、誰ひとりとして取り残されることのない社会の実現に向けて、当時、新たな教育と学びをデザインし創造しようとするものでした。現在の教育の中で話題となる、「主体的・対話的で深い学び」、探求的な学び、協働的な学び、課題解決学習、プロジェクト学習などは、デューイの思想にその由来や関連を見つけることができます。

また、デューイの娘のエヴェリンが提示したスローガンに learninng by doing 「為すことによって学ぶ」「行うことによって学ぶ」というものがあります。今で言うアクティブ・ラーニングと同義であると考えられます。目の前の子どもと出会い、その子どもの状況や悩みや苦しみから私たちが学んでいくことが本質的な課題解決のプロセスであると確信し、学び続けることの意義と重要性をあらためて考えました。

今年一年、さまざまにご協力いただきましてありがとうございました。
良いお年をお迎えください。